

大江真道（大阪府立大学農学部）

第7回根研究集会在第11回ファイトテクノロジー研究交流会と合同で1997年5月17、18日の2日間にわたり大阪府堺市の大阪府立大学学术交流会館において開催された。この初の試みとなった合同研究集会是100人を超える参加者（日本で研究を行っている2名の海外からの研究者を含む）、21題の講演発表、15題のポスター発表と大変充実した内容のものとなった。

今回の合同研究集会のパートナーとなったファイトテクノロジー研究交流会は「ハイテクノロジーに依拠したイノベーションにより生物生産技術に新展開をもとめる研究者・技術者の交流」を主旨として毎年定期的に研究交流会を開催しているアクティビティの高い研究会である。会員には生物生産システムに関わるあらゆる分野の研究者技術者が集まっている。

初日の17日は午後1時の開会宣言につづき、一般講演、ポスター発表そして夕方の懇親会。2日目はちょっと早めの午前9時から一般講演がスタートし、正午の閉会宣言で幕を閉じた。講演はひとつの会場のみで行われ、また休憩も少なかったために若干過密スケジュール気味であったが、目立ったトラブルもなく大勢の参加者のもとに順調に進行した。懇親会には研究集会在2日間にわたっていたことも手伝って参加者のほとんどが出席し、会の交流と参加者の懇親が和やかに夜遅くまではかられた。期間中はそれぞれの研究会のオリジナル書籍とTシャツ販売、業者による洋書や計測機器の展示会も行われこの合同研究集会在いっそう盛り立てた。

講演内容は合同研究集会上ふさわしく根の生理、機能、構造解析に関連したものからハイテク機器を用いた植物体の計測と診断、あるいは新しい生産システムの構築に関連したものと多岐にわたっており、講演会場では会の壁を超えた活発な質疑応答がなされ連日活気にあふれていた。なお、「異分野交流の試み」という今回の主旨が講演進行においても十分に生かされ、所属研究会による演者の割り振りはいっさい行われず、さらに発表形式も両研究会の形式を自由に選択できるものとなっていた。

今回の合同研究集会上アプローチこそ異なるが根、植物を共通の対象とする研究者同士が集まり活発に交流できたことで大変意義深いものであったと確信している。個人的にも植物生産におけるハイテク技術や最新の研究手法に触れることが出来、大変有意義なものであった。

最後となってしまい大変恐縮ではありますが、合同研究集会の開催にあたり会員の皆様方には大変お世話になりありがとうございました。お陰様でトラブルもなく無事終了することが出来ました。実行委員の一人としてこの場をお借りしてお礼申し上げます。

